

「先天性奇形」って？

磐田市立総合病院 小児外科 部長 後藤 圭吾



今回は先天性奇形についてお話しします。最近、風疹の流行が話題になっていきます。妊婦さんが風疹にかかるると生まれてくる赤ちゃんに異常が発生する「先天性風疹症候群」が問題なのです。

この病気では先天性白内障、心臓奇形、難聴（聾）がよく見られ、小頭症、小眼球症なども見られることがあります。予防するには女性はもちろん、風疹をうつす可能性がある男性もワクチン接種が求められます。

さて、奇形はどのようにして発症するのでしょう。子宮内で受精卵は細胞分裂を繰り返して組織・器官が形成され、発達し、ヒトとしての姿・機能が形作られていきます。奇形の原因は、

- ①染色体異常や遺伝子異常、②組織や器官の正常な形成・発達を妨げる因子（催奇形性因子）、③複合的要因や原因不明があります。

催奇形性因子に晒される時期が、受精後2週間以内なら流産することが多いですが、先天性異常のない赤ちゃんが生まれるときもありません。器官形成期（妊娠3～14週）では奇形や機能低下が起こります。その後、成長期では奇形発生は少なくなります。

風疹ウイルスはこの催奇形性因子の一つです。妊娠4～5週に風疹にかかると、器官形成期のため先天性奇形が起こり、妊娠中期から後期の成長期は奇形発生は少ないものの、中枢神経系や耳の機能障害が起こることがあります。

催奇形性因子には感染、化学物質、放射線、高血糖などがあります。妊娠全期間にわたり注意が必要ですが、特に器官形成期である妊娠初期はまだ妊娠に気づいていないこともあり、妊娠の可能性のある女性には注意が必要です。

自分の歯で食べよういつまでも

健康増進課 ☎ 37-2011
FAX 35-4586
問 こども未来課 ☎ 37-2012
FAX 35-4586

健康寿命を延ばすには、歯と口を健康に保ち、食事をよく噛んで食べることが大切です。そのためには、歯周病予防とオーラルフレイル予防が必要です。

歯周病は20～30代でも症状が現れますが、初期の段階では痛みなどの自覚症状がなく、徐々に進行していきます。オーラルフレイルとは、身体の衰え（フレイル）の一つで、口の周りのちよつとしたトラブルであり、「食べこぼし」「わずかなむせ」「滑舌の悪さ」「噛めない食品が増える」などの症状をいいます。

これらの予防として、日常生活で歯磨きや食生活に気をつけ、定期的な口腔チェックと歯磨きの指導をしてもらうために、かかりつけ歯科医を持ちましょう。

昨年度の健診受診者725人のうち、約6割の方が、むし歯や歯周病で治療や検査が必要な結果となりました。



磐田市では、次の方を対象に「歯と歯肉の健診」を実施しています

◆対象者

- 40歳（S54・4・1～S55・3・31生）
 - 50歳（S44・4・1～S45・3・31生）
 - 60歳（S34・4・1～S35・3・31生）
 - 70歳（S24・4・1～S25・3・31生）
- 妊婦（母子健康手帳交付時に配布する「歯と歯肉の健診（妊婦）受診券」をお持ちの方）

◆実施内容

歯周病・虫歯の健診、簡単な口腔衛生指導など

◆実施医療機関

市内協力歯科医院（市ホームページなどで確認できます）

◆実施期間

【成人】2020年3月末日まで
【妊婦】おおむね妊娠12週～27週

◆受診費用

無料（自己負担なし）

詳しくは、成人の方は健康増進課、妊婦の方はこども未来課へお問い合わせください。